

# 西宮市胃がん（内視鏡）検診 同意書

説明を受けて同意した項目の□に✓点をつけてください。

## ① 胃がん検診の目的と種類

胃がん検診は、症状がない時期にできるだけ早く胃がんを見つけ、治療につなげることで、胃がんで亡くなる方を減らすことを目的としています。その効果が証明されている方法としては、「バリウムを用いた胃部X線検査」と「胃内視鏡検査」があります。

## ② 胃内視鏡検査の方法

鼻もしくは口から胃内視鏡（胃カメラ）を挿入し、食道・胃・十二指腸を撮影しながら粘膜の状態や病変を詳細に観察する検査です。

- 偶発症（③参照）に関する死亡例の多くが、前処置に用いる「鎮痛薬・鎮静薬」などに起因していたことから、**「鎮痛薬・鎮静薬」は使用しません。**
- 色素を散布して、病変を見やすくすることがあります。
- 検査医が必要と判断した場合は、病変の一部をとり（生検）、細胞の検査（病理検査）を行うことがあります。
- 生検が行われた場合、市が定める検診費用の自己負担金の他に、生検にかかる保険診療の一部負担金を追加でお支払いいただきます。** 検診当日は、健康保険証を持参してください。また、生検により粘膜に傷がでますので、検査後、当日の食事はやわらかい消化の良いものを食べ、激しい運動、長湯、旅行などは控えてください。
- 検査の段階で急を要する症状がある場合に限り、ダブルチェックの結果を待たずに治療を開始することがあります。内視鏡を使用した手術を実施した場合には、西宮市胃がん（内視鏡）検診の“対象外”となりますので、**保険診療の一部負担金（1万円以上）をお支払いいただくことがあります。** この場合は、市が定める検診費用の自己負担金は不要となります。

## ③ 偶発症について

- 胃内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。
  - (1) 胃内視鏡により粘膜に傷がつくことや、出血、穿孔（<sup>せんこう</sup>穴があくこと）
  - (2) 生検による出血、穿孔（<sup>せんこう</sup>穴があくこと）
  - (3) 薬剤によるアレルギー（呼吸困難、血圧低下など）
  - (4) 検査前からあった疾患の悪化（症状の出ていなかった疾患も含む）現在、胃内視鏡検診による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性もあります。なお、当施設では偶発症の防止のため十分な注意を払うとともに、偶発症が発生した場合には最善の対応をいたします。

## ④ 検診結果について

- 検診で精密検査が必要と判定された方について、市から本人または医療機関に対して受診状況等に関する問い合わせを行うことがあります。検診結果および精密検査結果は、個人が特定できないように市で統計処理し、部分的に国等へ報告し、研究等に使用することがあります。

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_説明医師名

私は、胃がん（内視鏡）検診の目的を理解するとともに上記事項に同意のうえ、胃がん（内視鏡）検診を受けます。

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_受診者署名